

医療安全トピックス TOPICS

Vol. 175

田村 真子

一般社団法人日本医療安全調査機構
医療事故調査・支援事業部

医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No.2 「注射剤の血管内投与後に発症したアナフィラキシーによる死亡」について

日本医療安全調査機構では、医療事故の再発防止に向けて、さまざまな活動を展開しています。今号では、2025年3月に公表した「医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No.2 注射剤の血管内投与後に発症したアナフィラキシーによる死亡」(以下：警鐘レポート No.2) について紹介します。

警鐘レポート No.2 (図表1・2)^{*1} は、2018年1月「医療事故の再発防止に向けた提言第3号 注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析」(以下：提言第3号)^{*2} の続報です。提言第3号の公表後6年間で、注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例が新たに19例報告されました。

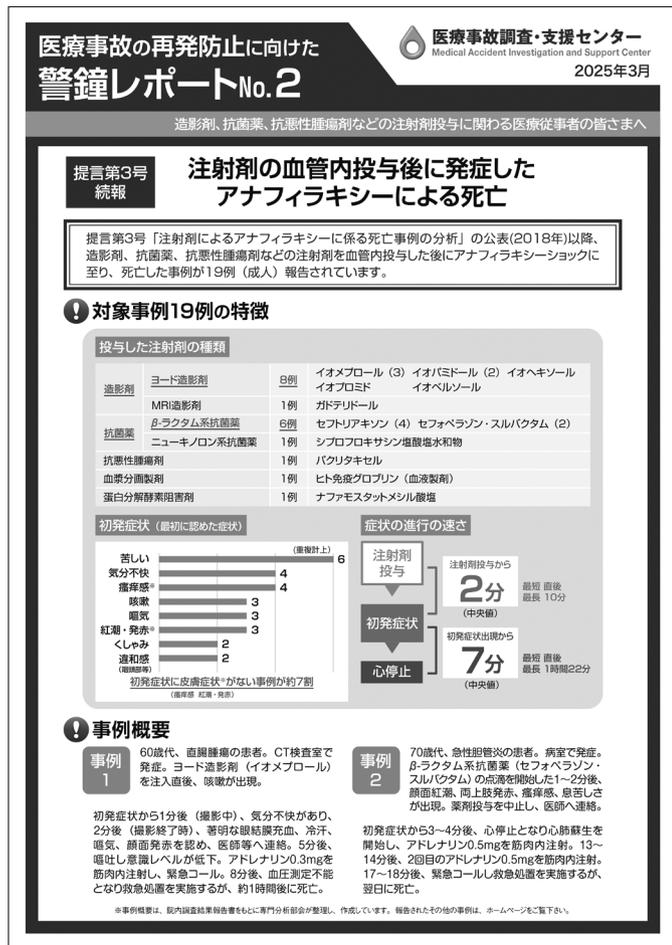
【図表1】警鐘レポート No.2の1ページ目

●造影剤や抗菌薬などで 多く発症している

対象事例19例で投与していた注射剤は、造影検査時に投与されるヨード造影剤などの造影剤が9例で最多、次いでβ-ラクタム系などの抗菌薬が7例でした。アナフィラキシーはあらゆる薬剤で発症する可能性があり、過去に安全に使用できた薬剤でも症状が出る場合があります(図表1)。

●皮膚症状がないのに アナフィラキシーなの？

対象事例のアナフィラキシーの初発症状



*1 https://www.medsafe.or.jp/modules/advocacy/index.php?content_id=224

*2 https://www.medsafe.or.jp/modules/advocacy/index.php?content_id=51